

医療・介護資源把握関係資料の要点等

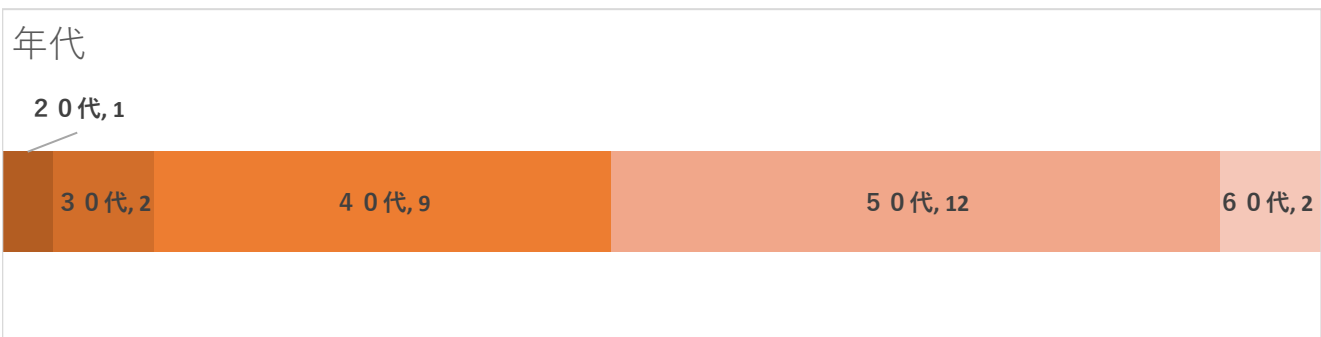
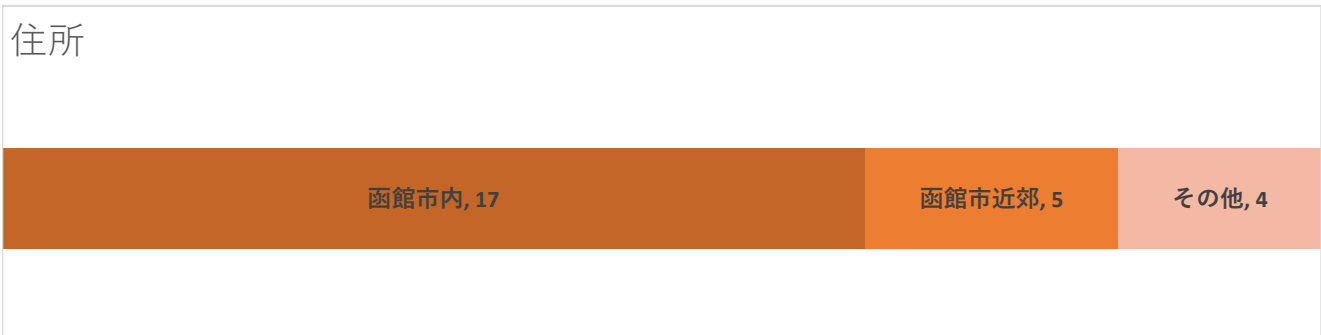
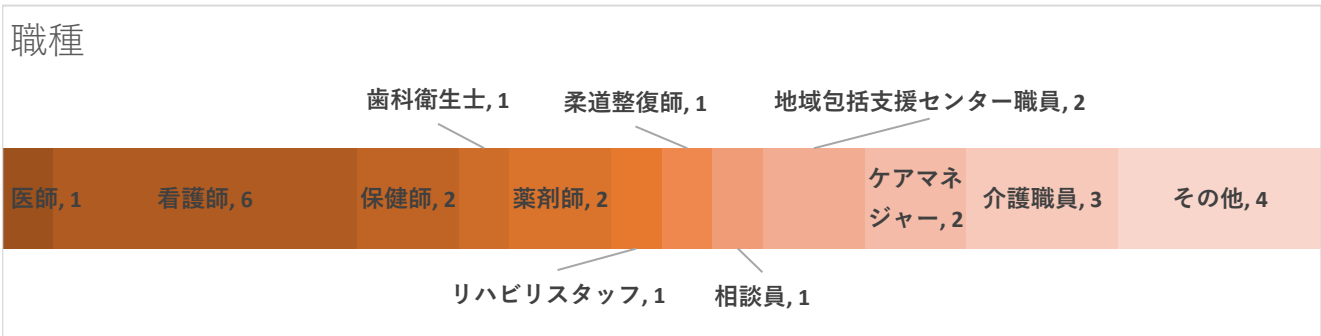
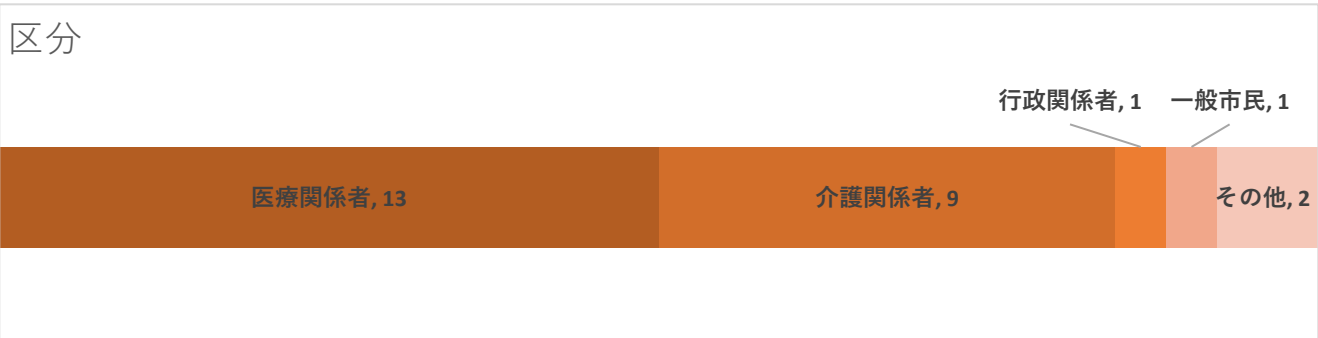
- 函館市医療・介護連携支援センターホームページの充実
以下のコンテンツを追加し、ホームページの内容を拡充
- 函館市医療・介護連携支援センターホームページ 活用状況等に関するアンケート結果
(R 2. 5月～R 2. 7月分)
集計結果は資料 4 - 2 参照
- 認定看護師のコラムの掲載
地域で活躍する認定看護師の役割について知っていただく機会として、分野別に各認定看護師にコラム作成を依頼し、7月の感染管理認定看護師からスタートし、以後2ヶ月ごとに掲載。
※これまでの掲載(資料 4 - 3 参照)
感染管理認定看護師(7月)
緩和ケア認定看護師(9月)
乳がん看護認定看護師(11月)
- その他
 - ・在宅医療・介護連携マップの更新(新規追加含む)状況
(既存情報の更新～令和2年10月1日現在の情報にて更新作業中)
 - ・「多職種からのお役立ち情報」を追加
(コロナ渦における各団体の取り組みを周知)

※これまで掲載した団体等

- ・道南圏域在宅歯科医療連携室
- ・函館市有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅ネットワーク
- ・沖縄県中部地区医師会 在宅医療介護連携推進支援センター

函館市医療・介護連携支援センターホームページ

○アンケート集計結果 2020.5~2020.7分 (n=26)



どのように知ったか

当センター職員による
紹介（研修会等）, 2

以前から利用していた,
11

関係者からの紹介, 3

検索サイト, 8

その他, 2

閲覧頻度

よく見る（週に数回）,
3

たまに見る（月に数
回）, 11

あまり見ない（年に数
回）, 5

今回が初めて, 7

閲覧目的

お知らせ, 5

研修情報, 7

在宅医療介護連携マッ
プ, 11

コラム, 1

その他, 2

役に立ったか

とても役に立った, 6

役に立った, 17

あまり役に立たなかつ
た, 3

利用しやすいか

とても利用しやすい, 4

利用しやすい, 22

認定看護師の役割と活動

第1回 『感染管理認定看護師』

日本感染管理ネットワーク北海道支部道南ブロック

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会病院

かめやま さとし
亀山 敏 様

令和2年7月掲載

感染管理認定看護師は、日本看護協会が認定する分野の中では最も多く、全国では約2,900人、道南地域では13名が活動しております。自施設の状況を評価し、感染予防対策やシステムを構築する役割があり、状況の確認や職員の研修など、日々奮闘しております。

他にも、診療報酬の感染対策加算などによって医師や薬剤師、検査技師とチームを組んで他の施設と連携を図り、地域の感染状況や情報交換のカンファレンスや研修会に加わっております。

道南地域は、北海道の中でも早くから地域での活動に取り組んでおり、毎年7月には研修会を開催し、医療機関や介護施設、グループホームなどに協力を賜り、多くの方々に参加していただきましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、開催することができませんでした。研修会を継続し、多くの方が感染予防、感染防止を理解し、施設に合った実践ができるようにつなげることを目的のひとつ

に掲げておりましたが、残念ながら延期となりました。

この新型コロナウイルスは、これまでに経験がないほどの影響を及ぼしました。感染予防策の基本となる「標準予防策」の手指衛生や環境整備に必要な薬剤の不足、マスクやガウン、ゴーグルなどの個人防護具の不足、咳エチケット、リネンの処理や廃棄物、器材の消毒、従事者の教育等、標準予防策の基本となることが、物の不足によってできなくなりました。「いつものように」は、「当たり前のように」ではなくなりました。



しかし、良かったこともあります。感染対策として、小さな子供から高齢者まで標準予防策が浸透したことでした。手指衛生、咳エチケットは特に実感しました。マスクを着用していない人を見つける方が難しくなり、手指衛生用の擦式アルコール製剤は売り切れとなりました。マスクやフェイスシールドの作成が紹介されるなど、物がいない中での感染対策についても、毎日の報道の効果はすごいと感心いたしました。実践される方が多くなったことを率直に感じました。

主な感染経路は、飛沫感染と接触感染となっていますが、傷のない健康な皮膚の手が触れた場合や物に触れてもすぐに感染は起きません。

手指衛生を行えば感染は起こらないとされます。過剰すぎる感染予防策も心理面で疲れてしまいますので、理解してほしいと思います。

ウイルスの特徴として、これからも感染予防策として対応する状況が続くと思いますが、標準予防策は、「自分を守る」「身近な人を守る」ということを理解して忘れないでほしいです。

地域には、経験の豊かで相談できる感染管理の看護師がおります。これからも、我々の活動をよろしくお願いします。



●現在、道南ブロック内では下記の病院に在職しています●

市立函館病院・函館五稜郭病院・函館中央病院・国立病院機構

函館病院・函館新都市病院・共愛会病院・西堀病院・八雲総合

病院・函館市医師会病院

認定看護師の役割と活動

第2回 『緩和ケア認定看護師』

社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院

総合医療支援センター がん相談支援センター

けいら ちかこ
計良 千香子 様

令和2年9月掲載

現在、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代とされています。がん患者さんやそのご家族は、身体や気持ちのつらさを抱えながら日々を送っています。そのつらさを和らげるお手伝いをするのが緩和ケア認定看護師の役割です。

「緩和ケア」という言葉を耳にすると、「終末期」をイメージされる方が多いように思いますが、今はがんと診断された時から緩和ケアを行うことの重要性が言われています。診断時から痛みなどの症状がある場合には鎮痛剤の処方となされ、病名告知による気持ちの落ち込みには心理的支援が行われます。治療期には抗がん剤や放射線治療の副作用の予防や対処が必要となります。がんの診断時から緩和ケアを並行して行い、がん治療を支えるとともに常に苦痛の緩和を目指しています。

院内の活動としましては、緩和ケアチームの看護師として患者さ

んのケアを行ったり、スタッフからがん患者さんのケアに関する相談を受けたり、院内でのがん看護・緩和ケアに関する研修を企画・実施しています。また、がん相談支援業務も行っており、患者さんやご家族から相談を受けたり、ピアサポートの活動であるがんサロン・がんヨガの運営にも携わっています。がんサロンは、同じ病気を持つ仲間との語り合いの場となっており、病気のことや治療のことなどについて話をして仲間から元気をもらえる場となっています。がんヨガは、インストラクターもがんサバイバー（がんと診断された直後から治療中の人も含むすべての「がん体験者」のこと）であり、呼吸と笑顔をテーマに行っています。癒しの場であり仲間と会える場として機能しています。新型コロナウイルスの影響でどちらもお休みしていましたが、患者さんからの要望もあり、サロンに関しては7月から、ヨガに関しては8月から再開することといたしました。がん相談支援センターでは、どこの病院にかかっているかでも相談することができます。実際、他院入院中の患者さんのご家族が相談にいらっしゃったこともありました。

地域での活動としましては、がん関連の認定看護師が参加している「道南がん看護研究会」にて、毎年5月に医療従事者向けに研修会を

開催し、多くの方に参加していただいております。研修会を継続していくことで、多くの方にがん看護についての知識を広め、それぞれの施設での実践につなげることを目的にしておりますが、残念ながら今年度は新型コロナウイルスの影響により開催できませんでした。

また、MOPN（南渡島地域包括緩和ケアネットワーク）の世話人としても活動しています。MOPNでは、市民の皆様向けに市民公開講座として、緩和ケアに関する最新的话题をお届けしています。しかし、こちらも新型コロナウイルスの影響により延期となっています。

市内にはたくさんの緩和ケアの仲間達が活動しておりますので、何かお困りの際はいつでもがん相談支援センターにお立ち寄りください。これからもよろしくお願いいたします。

●現在、道南ブロック内では下記の病院に在職しています●

市立函館病院・函館五稜郭病院・函館中央病院・国立病院機構

函館病院・函館協会病院・函館おしま病院・森病院

認定看護師の役割と活動

第3回 『乳がん看護認定看護師』

北美原クリニック乳腺センター

むらかみよしみ

看護師長 村上佳美 様

令和2年11月掲載

認定看護師とは、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識をもつ看護師のことをいいます。色々な分野の認定看護師がいる中で、私は「乳がん看護」という分野を専門としています。他の分野は治療に特化していることが多いのに対し、なぜ乳がんなのかということについて、少しお話したいと思います。

乳がんは、女性の罹患する癌の中では一番多い癌であり、女性の11人に1人が乳がんになるといわれています。一方で、死亡率は他の癌に比べて高くはなく、早期に見つけることができれば治癒を期待できる癌でもあります。乳がん検診受診を促す背景はここにあるわけです。また、乳がん罹患する年齢をみてみると、40歳代後半から急激に患者数が増えてくるという特徴があります。40歳代後半以降というのは、女性の一生において、仕事・子育てなど重要な

時期でもあります。どんなに早期に発見したとしても、乳がん罹患すると、様々な生活上の変化を経験することになります。実際に仕事や子育てと治療を両立するにはどうしたらよいかと、様々な悩みを抱える方々も多くいらっしゃいます。そのような方々に寄り添い、乳がん治療についての知識を駆使しながら、共にどうしたらよいのかを考えていくのが、私たち乳がん看護認定看護師の役割です。

ここで私自身の活動についてご紹介します。私が勤務しているのはクリニックなので、クリニックに通院している方に対する直接的ケアが、主な活動となっております。乳がん治療に伴う様々な治療選択における意思決定支援や、ボディイメージの変化に対するケアなど行いながら、できるだけその方らしい生活を送れるよう支援しています。また、ゆっくりお話を聴いてほしいという方への看護相談を行ったり、患者さん同士の交流の場として患者会を行うなどもしています（現在は、新型コロナウイルス感染予防のため休止しています）。院外においては、市内の乳がん診療を行っている先生方とともに道南乳腺疾患研究会の世話人として活動しております。いかをシンボルとしたピンクリボンバッチの作成のほか、医療従事者で行う地域乳腺がんサーボードの実施、五稜郭タワーのライトアップ

プや、市民公開講座の開催などを行っております。また、市内のがん関連の認定看護師で構成される道南がん看護研究会へも参加させていただき、様々な分野の認定看護師の皆様とともに、市内のがん看護の質を上げるため、医療者向けの勉強会などを行っております。

私のように、乳がん看護を専門としている認定看護師は市内に 3 名しかおりません。しかし、それぞれの施設におられる他分野の認定看護師の皆様と協力しながら、この地域で暮らす乳がん患者さんが、少しでも安心して過ごせるよう今後も努めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

●現在、函館市内では下記の病院に在職しています●

国立病院機構函館病院・函館五稜郭病院・北美原クリニック